

令和3年度 社会福祉法人白梅学園 事業報告 【全般】

1. 入退所児童等の状況（令和3年度）

施設名	定 員	年度初	入所数	退所数	一時保護	ショートステイ
乳 児 院	10人	7人	2人	4人	2人延66日	12人延32日
児童養護施設	44人	40人	4人	8人	4人延40日	12人延48日

2. 令和3年度の出来事

- 4月 1日 新任職員理事長面接（後）
5日 福養協および中児家セン監事監査（済生会乳児院）園長対応
8日 敦賀西小学校・松陵中学校入学式および第1学期始業式
敦賀気比高校入学式 児童健康診断（夕）
県立児童自立支援施設〔和敬学園〕内 杉坂小中学校開校式（園長列席）
9日 敦賀北幼稚園入園式 職員会議（前）
11日 中児家セン総会（あいあいプラザ）園長、田中相談員出席
16日 三者会議（児相、市役所、白梅：児相）正副園長出席
18日 天理教祖（おやさま）誕生日
21日 養護全体会議（前） 中養協議委員会®（後）園長
22日 乳児カンファレンス（前）
23日 4月分給料支給
26日 ひきこもり相談会（後）
28日 福養協職員研修会®4名参加
29日 【昭和の日】
5月 3日 【憲法記念日】
4日 【みどりの日】
5日 【こどもの日】
7日 福井県家庭養護推進ネットワーク「福さと」開設式（総福児相：前）園長出席
全国乳児福祉協議会監事監査®（夕）園長出席
10日 全児家セン役員会®（前）および総会®（後）園長出席
12日 東海北陸ブロック乳児院協議会総会（あいあいプラザ）園長出席
13日 福井県退職共済会運営委員会®（前）園長出席 児童健康診断（夕）
18日 評議員選任解任委員会（夕）
20日 乳児カンファレンス（前）
24日 全乳協総会®（後）園長出席 ひきこもり相談会（後）
25日 養護全体会議（前） 5月分給料支給
26日 学園監事監査（前）
29日 ユニバーサル野球慰問（後）園内敷地
31日 福井県社保審児童福祉部会（総福児相：後）園長出席
6月 2日 福井県災害福祉支援ネットワーク協議会®（後）園長出席
3日 理事役員会（前） 児童健康診断（夕）
10日 虐待対応研修®（敦賀児相）
13日 嶺南里親サロン（小浜市）
15日 夏季賞与支給
16日 東海北陸ブロック乳児院養育主任者会（あいあいプラザ）園長・高木主任出席
21日 県社協定時評議員会（後）園長出席
23日 市社協定時評議員会（前）園長出席
24日 乳児カンファレンス（前）
25日 6月分給料支給
28日 養護全体会議（前） ひきこもり相談会（後）
30日 定時評議員会および理事役員会
7月 1日 児童健康診断（夕）
2日 全児家セン実務者研修®4名参加 全社協SV研修®2名参加
中養協研修委員会（岐阜市）園長出席
3日 FLECフォーラム緊急シンポジウム®5名参加
6日 福養協拡大施設長会議①（県社協：後）正副園長・事務長出席

7日 職員会議（前） 防犯訓練（前）敦賀警察署協力
 19日 養護全体会議（前）
 21日 全児家セン役員会®（後）園長出席 7月分給料支給
 22日 【海の日】
 23日 【スポーツの日】
 24日 里親研修（養護実習）
 26日 緊急合同支援者会議（前） ひきこもり相談会（後）
 27日 県社協主催チームリーダー研修①（県社協）3名参加
 28日 県社協主催チームリーダー研修②（県社協）3名参加
 福井県社会福祉審議会児童福祉部会（後：県庁）園長出席
 29日 乳児カンファレンス（前）
 31日 里親研修（養護実習）
 8月 4日 児童虐待防止研修®5名受講
 5日 敦賀西RC慰問（前） 児童健康診断（夕）
 6日 合同海水浴行事（菅浜海岸）
 8日 【山の日】
 9日 【振替休日】
 19日 学園納涼祭（昼）
 23日 ひきこもり相談会（後）
 25日 乳児カンファレンス（前） 8月分給料支給
 27日 中部ブロック緊急運営委員会®（後）園長出席
 28日 映画「189」上映会（あいあいプラザ：後）
 30日 養護全体会議（前） 福井県災害福祉支援NW協議会®（後）園長出席
 31日 合同支援者会議（前） 乳児院指導職員研修®（2名受講～9/3）
 9月 1日 松陵中3年生修学旅行（県内一泊）
 7日 児相インターンシップ研修（後：4名）園長講義
 8日 県社協新任職員研修①®3名受講
 10日 県社協中堅職員研修®3名受講
 15日 中部ブロック児童養護施設乳児院研究協議会石川大会®8名参加
 20日 【敬老の日】
 21日 全児家セン役員会®（前）園長出席
 22日 養護全体会議（前）
 23日 【秋分の日】
 24日 乳児カンファレンス（前） 中養協研修委員会®（後）園長出席
 榎本評議員お彼岸おはぎ作りボランティア（後） 9月給料支給
 27日 ひきこもり相談会（後）
 28日 県社協法人連携事業協議会理事会（後）園長出席
 30日 西小学校6年生修学旅行（県内一泊）
 10月 1日 職員会議（前）
 4日 県社協評議員会（後）園長出席
 5日 福井県社保審児童福祉部会（前）園長出席
 6日 全乳協議会®園長出席
 7日 三者会議（前）
 8日 中児家セン実務者研修会（三重県）園長・田中相談員出席
 小中学校第1学期終業式
 9日 芋ほり招待（三方地区：榎本評議員他協力）
 13日 小中学校第2学期始業式 中養協議員会（名古屋）園長出席
 県社協新任職員研修②®3名受講
 14日 県社協新任職員研修③（越前市）3名受講
 16日 全国里親大会®（～17日）2名参加
 19日 敦賀児相との懇談（前） 福養協拡大施設長会議（後：県社協）正副園長出席
 20日 ブロック乳児栄養士会（福井市）乳児栄養士参加
 22日 養護全体会議（前）
 23日 福井県社会福祉大会および会長表彰（福井市）谷岡相談員出席
 25日 ひきこもり相談会（後） 10月分給料支給
 26日 県庁子ども家庭課との協議（後：県庁）園長・事務長出席
 27日 全養新潟大会®正副園長出席
 28日 乳児カンファレンス（前）
 31日 みかん狩り招待（小学生のみ：大比田地区森田さん）

1 1 月	3 日	【文化の日】	天理教越乃國大教会創立 1 3 0 周年記念祭	
	4 日	児童健康診断（夕）		
	5 日	西小連絡会（後）		
	9 日	就学前健康診査（後） 2 名該当		
		ブロック乳児養育主任者会（岐阜市）高木主任・谷岡相談員出席		
	1 0 日	全児家セン役員会および研究協議会徳島大会（～ 1 1 日）園長出席		
	1 3 日	七五三祝（1 名）		
	2 2 日	養護全体会議（前）	ひきこもり相談会（後）	
	2 3 日	【勤労感謝の日】		
	2 4 日	中養協指導職員研修会® 2 名参加		
	2 5 日	乳児カンファレンス（前）	1 1 月分給料支給	
	2 6 日	ブロック乳児総務主任者会（福井市）事務長出席		
	2 7 日	感染症フォローアップ研修（福井市）看護師 1 名参加		
1 2 月	1 日	職員慰労会①		
	2 日	児童健康診断（夕）	職員慰労会②	
	3 日	西小連絡会（夕）		
	4 日	里親登録前研修①（養護）		
	6 日	職員慰労会③		
	1 0 日	職員慰労会④	* 年末賞与支給	
	1 2 日	里親基礎研修	職員慰労会⑤	
	1 5 日	福養協拡大施設長会議（後：県社協）正副会長・事務長出席		
	1 6 日	職員慰労会⑥		
	1 9 日	里親嶺南サロン（後：小浜市）		
	2 1 日	養護全体会議（前）		
	2 2 日	乳児カンファレンス（前）		
	2 4 日	1 2 月分給料支給		
	2 5 日	天理白梅寮生との採用面談（天理市）副園長出席		
		北陸電力労組青年部慰問（後）		
	2 6 日	里親登録前研修②（養護）		
	3 0 日	年末帰省開始（～ 1 / 5）		
	3 1 日	大晦日		
1 月	1 日	【元日】		
	4 日	職員会議（前）		
	5 日	お正月お楽しみ行事（後）榎本評議員参加		
	6 日	児童健康診断（夕）		
	1 0 日	【成人の日】		
	1 8 日	西小連絡会（夕）		
	2 0 日	中養協事務職員研修®事務長参加		
	2 1 日	養護全体会議（前）		
	2 4 日	ひきこもり相談会（後）		
	2 5 日	1 月分給料支給		
	2 8 日	乳児カンファレンス（前）	中養協研修委員会®園長出席	
	2 9 日	第 4 回FLECフォーラム研修®正副園長受講（～ 3 0 日）		
2 月	3 日	福養協心理士部会発足会®（前）	* 節分豆まき（夕）	
	4 日	福井県児童福祉司任用資格講習会①® 6 名受講		
	5 日	マナークリップ研修（中高生対象）		
	9 日	福井県児童福祉司任用資格講習会②® 6 名受講		
	1 0 日	三者会議（前）		
	1 1 日	【建国記念の日】		
	1 5 日	県社協共同募金助成金交付式®（後）副園長出席		
	1 7 日	中部ブロック運営委員会®（前）園長出席		
	1 8 日	福井県児童福祉司任用資格講習会③（一陽） 6 名受講		
	2 1 日	中養協正副会長会議®（後）園長出席		
	2 2 日	養護全体会議（前）	総合消火訓練（前）	
	2 3 日	【天皇誕生日】	ブロック乳児正副会長会議（白梅）園長出席	
	2 4 日	福井県児童福祉司任用資格講習会④（一陽） 6 名受講		
	2 5 日	乳児カンファレンス（前）	2 月分給料支給	
	2 8 日	ひきこもり相談会（後）		
3 月	3 日	福井県社審児福祉部会（前：総福児相）園長出席		ひなまつり

4 日 小浜市要対協の会合（後：小浜市役所）園長・田中相談員出席
 7 日 白梅学園理事役員会（後）
 9 日 中養協議員会®（後）園長出席
 1 1 日 松陵中学校卒業式 白梅学園評議員会
 1 5 日 西小学校卒業式 県社協評議員会（前）園長出席
 1 6 日 北幼稚園卒園式 福養協拡大施設長会議（後：県社協）正副園長出席
 1 7 日 ブロック乳児施設長会議®（後）園長出席
 1 9 日 乳児カンファレンス（前）
 2 1 日 【春分の日】
 2 2 日 福井県DWAT協議会®（前）園長出席
 養護全体会議（前） 中養協正副会長会議®（後）園長出席
 2 3 日 中養協人材育成委員会（後：名古屋市）中村相談員出席
 2 4 日 各校修了式 全児家セン役員会®（前）園長出席
 2 5 日 奈良保育学院実習懇談会（天理市）副園長出席 3 月分給料支給
 2 8 日 ひきこもり相談会（後）
 2 9 日 新任職員研修（～30 日） 市社協評議員会（前）園長出席
 全児家セン役員会®（夕）園長出席
 3 0 日 全児家セン・ヤングケアラー研修®（後）園長出席
 3 1 日 天理教少年会越乃國分団総会®

3. 令和3年度各学校への入学（入園）・卒業関係

(1) 令和3年度に入学した実数等

敦賀西小学校（2 名）
 松陵中学校（2 名） 気比中学校（1 名）
 敦賀気比高校（1 名）

(2) 令和3年度に卒園卒業した子どもの実数等

敦賀北幼稚園（2 名） ➡ 敦賀西小学校
 松陵中学校（4 名） ➡ 敦賀気比高校（3 名） 敦賀工業高校（1 名）
 嶺南西養護学校中等部 ➡ 嶺南東養護学校高等部（1 名：3 月末入所）

4. 令和3年度実習生受入実績

実 習 受 入 校 名	人 数	実 習 受 入 校 名	人 数
京都華頂短期大学	9 人	大阪保育福祉専門学校	3 人
豊岡短期大学	1 4 人	池坊短期大学	2 人
滋賀短期大学	3 2 人	びわこ学院大学短期大学	3 人
奈良保育学院	6 人	京都文教短期大学	4 人
仁愛大学	4 人	滋賀文教短期大学	2 人
仁愛女子短期大学	1 0 人		
合 計		1 1 校	9 1 人

5. ご寄附をいただいた個人・団体名

No.	ご 芳 名	寄附等の内容	金 額 (円)
1	敦賀市更生保護女性会	年末慰問金	1 0, 0 0 0
2	美浜町更生保護女性会	年末慰問金	1 0, 0 0 0
3	匿名希望（5 件）	子どものため	1, 4 6 0, 0 0 0
4	なぎさ工業	子どものため	1 0, 0 0 0
5	全国乳児福祉協議会	七五三祝い助成	3 0, 0 0 0
6	プレジデンシャル生命	子どものため	3, 0 0 0
計			1, 5 2 3, 0 0 0

6. 令和3年度の物品寄附等（敬称略）

月	ご 芳 名	住 所	物 品 名
4	海道千春	福井市	衣類
	増永組	敦賀市	自転車1台（中学生）
	徳本珠美	敦賀市	子ども用マスク
	今村節子	美浜町	紙オムツ
	坊 善信	若狭町	衣類・靴
	浦井美穂子	敦賀市	ベビーカー他
	多田恵子	敦賀市	子ども用マスク
	ムーンバット	東京都	傘
5	パチンコラスベガス	敦賀市	お菓子
	ブレッシングス	東京都	シール
	チュチュアンナ1％C	大阪市	靴下
	坊 善信	若狭町	衣類
	山本美佐緒	敦賀市	紙オムツ
	中村哲郎	所沢市	ユニバーサル野球
	パチンコラスベガス	敦賀市	お菓子
6	日本原電労組	敦賀市	積み木セット
	魚平	敦賀市	ビワ
	パチンコラスベガス	敦賀市	お菓子
	明治乳業（全乳協）	東京都	明治ほほえみ
	フレーベル館	東京都	絵本
	原 豊文	横浜市	学習本
	信州の出版社文屋	長野県	絵本
7	杉本志慧瑠	敦賀市	衣類等
	高橋健二	小浜市	きゅうり・茄子
	辛島康之	敦賀市	メモ帳
	東京子ども図書館	東京都	絵本
	母子保健推進会議	東京都	紙オムツ
	高木鈴子	敦賀市	アイスクリーム
	牧野重一	敦賀市	洗濯機他
	市社協	敦賀市	マスク8枚
	匿 名		お菓子
	パチンコラスベガス	敦賀市	お菓子
	氣比神宮	敦賀市	清涼飲料水
8	敦賀西ロータリークラブ	敦賀市	マスク・非接触型体温計等
	パチンコラスベガス	敦賀市	お菓子
	徳本道輝	敦賀市	お菓子・果物
	高木鈴子	敦賀市	アイスクリーム他
	匿 名		紙オムツ
	牧野重一	敦賀市	お菓子・衣類他
	福井精米	福井市	新米
	坊 善信	若狭町	衣類他
	古川 明	敦賀市	ヤクルト他
	若狭東更生保護女性会	若狭町	日用品（タオル他）
	藤本宏幸	美浜町	新米
	榎本康博他	若狭町	新米
9	川元サイクル	敦賀市	中古自転車
	橋本茂光	美浜町	花火・文房具等
	多田恵子	敦賀市	布マスク
	近ちゃんふぁ～む	坂井市	梨
	榎本康博	若狭町	おはぎ作り等
	パチンコラスベガス	敦賀市	お菓子
	信州の出版社文屋	長野県	絵本
	スポーツコバヤシ	敦賀市	スポーツ用品
10	高木鈴子	敦賀市	マスク・衣類
	榎本康博他	若狭町	芋ほり招待
	辛島康之	敦賀市	アイスクリーム等

1 0	中谷詩織	敦賀市	赤ちゃん用衣類
	匿 名		マスク・洗剤
	森田初之	敦賀市	みかん狩り招待等
	匿 名		もち米
1 1	パチンコラスベガス	敦賀市	お菓子
	田村美代子	若狭町	衣類
	匿 名		衣類
	氣比神宮社務所	敦賀市	七五三詣（祈願）
	児相（天谷CW）	福井市	お米
	林 一夫	敦賀市	柿
	本勝寺	敦賀市	お米・お菓子
	橋本茂光	美浜町	文房具等
1 2	高橋健二	小浜市	ミスタードーナツ券
	サンゲツ	名古屋市	カーテン生地
	敦賀市更生保護女性会	敦賀市	慰問金・お菓子
	カナカン乾親会	金沢市	カップ麺
	パチンコラスベガス	敦賀市	お菓子
	自衛隊広報室	敦賀市	カレンダー他
	和久野町（村中）	敦賀市	古本
	高木鈴子	敦賀市	アイスクリーム等
	日本鏡餅組合	新潟市	鏡餅セット
	美浜町更生保護女性会	美浜町	慰問金
	東京海上日動敦賀支店	敦賀市	アイスクーキ等
	玉村哲哉	若狭町	バルーンアート
	横浜幸銀信用組合	横浜市	乳幼児用絵本
	敦賀市婦人児童福祉協議会	敦賀市	みかん
	門司一徹	東京都	クリスマスカード
	山 耕	越前市	ランドセル
	GREENs(垣本和行)	越前市	文房具・図書券等
	ふくい産業支援センター	坂井市	
	安達商会	福井市	
	CoTo	敦賀市	
	江 前	福井市	
	池田みつ枝	沼津市	みかん
	英語の先生（平佐田）	敦賀市	お菓子
	チュチュアンナ1%C	大阪市	靴下
	伊原由美子	敦賀市	お餅・おもちゃ
	横浜幸銀信用組合	神奈川県	絵本5冊
	高木貴恵(美管理SD)	東京都	お菓子
	全国シャンメリー協同組合	東京都	シャンメリー
	大久保奈弥	東京都	絵本
	住友生命福井支社	福井市	クリスマスケーキ
	川口輝笑	敦賀市	お菓子・文房具他
	北電労組青年部敦賀分会	敦賀市	慰問(お好み焼き等)
	榎本康博	若狭町	お正月餅作り
	竹内廣宣	あわら市	正月用お菓子
	匿 名		単行本
	山本順(なぎさタイヤ)	敦賀市	慰問金
1	本勝寺	敦賀市	お菓子他
	ブルデンシャル生命保険	敦賀市	お菓子・慰問金
	中村京子	敦賀市	りんご
	日本教文社	東京都	カレンダー他
	石丸智恵	敦賀市	文房具等
	田村美代子	若狭町	ベビーカー他
	西浦石油店	敦賀市	お米
	アサヒグループ食品	西宮市	ベビーフード
	石井孝典	東京都	節分豆
	氣比神宮	敦賀市	清酒・お米
	パチンコラスベガス	敦賀市	お菓子

2	江南友利恵	敦賀市	マスク・リュックサック
	石田哲治	大津市	光るキーボード
	JA福井県中央会	福井市	お米
	匿名		寄付金
	ゆうあい倶楽部	敦賀市	本棚
	ありさんプロ（株）	福岡県	DVD、絵本
	フィットネスCカーブス TSUKIWA 山友建設 カワイ		日用雑貨品
		福井市	
		南越前町	
	匿名	越前市	
3	門司一徹	東京都	寄付金
	高橋健二	東京都	きらきらうさぎ雛
	フードバンクふくい	小浜市	キャベツ
	原田愛美	鯖江市	お菓子
	心REBORN教会	若狭町	衣類
		東京都	絵本

7. 令和3年度に来園された議員（敬称略）

①衆議院議員		
高木つよし	斉木	武志（元）
②福井県議会議員		
なし		
③敦賀市議会議員		
山本	武志	三國 真弓

事業報告書	乳 児 院 舊 舎
-------	-----------

令和3年度事業報告

1. 事業の目的

白梅学園乳児院舊舎は、天理教の基本理念に基づいて長年積み上げてきた養育実践を踏まえ、事情があつて親と生活を共にすることのできなくなった子どもたちの傷ついた心に寄り添い、温かい眼差しの下、親心に徹した養育体制で子どもたちの心身の発育に寄与していくことを目的とする。

そして、無限の可能性を秘めた子どもたちを大切に扱い、安心して生活できるよう、また生きるよろこびを味わえるように養育を実践していく。

2. 施設の現状

この1年間、入所児童が2名で退所児童が4名であつたことをまず報告する。年度末には令和4年度は暫定定員が設定されはしないかという危惧があつたものの、現下のコロナウイルス感染症により定員設定については令和3年度と同様扱いとされたため幸い令和4年度も定員10名を何とか維持できた。けれどもこのような中でも福井県社会的養育推進計画を進めていかなければならなかった。つまり乳児院の機能を向上させまた施設の多機能化を進めることである。この間研修会そのものが中止になったり延期になったりしたものもあるが、少しずつオンライン開催の研修が増え職員のスキルアップに繋がる環境には徐々にはなってきている。したがって未だ十分な体制とは言えない実態である。一方、この1年間子どもたちや職員はコロナウイルスに感染することはなかった。日々職員がこれの対応に従事したものと評価したい。

さて乳児院における養育体制はこれまで通り基本理念に沿った形で、「一手一つ」の精神で子どもの養育に取り組むことにある。国が示す「社会的養育ビジョン」を踏まえて策定された福井県社会的養育推進計画を実践していくならば、乳児院としてより一層児童相談所や嶺南各市町の担当課と協力体制を取りながら乳児院の施設機能を地域に還元できるように進めていかなければならない。したがって令和4年度も引き続き家庭養育機能に支障のあるご家庭に対して支援できる体制となつていけるよう職員のスキルを向上させるべく研修等を充実させていきたい。

3. 令和3年度グループ構成と養育体制

グループ名	定 員	対象児	養育者		その他
すなお	5 名	乳幼児	主 任	看護師・保育士	栄養士・調理員
まこと	5 名	乳幼児		看護師・保育士	家庭相談員など

◇令和3年度入退所実績表（委託一時保護児童含める）

	入所	退所	退所後先	一時保護	一保解除	一保解除後先
男	0	2	白梅養護 2	0	0	
女	2	2	白梅養護 1 家庭 1	2	2	家庭 2
計	2	4	4（再掲）	2	2	2（再掲）

【養育体制】

○すなお（看護師2名・保育士等5名）

乳児は観察室で養育にあたる。乳児は様々な疾患に罹りやすいため、看護師が嘱託医やかかりつけの医療機関等に連絡等を行い随時対応した。ダウン症児はこの間成長が著しかったほか重大な疾患は見せなかった。また男児が川崎病を発症し経過観察を行っている。その他の子どもたちは恙なく成長した。

○まこと（看護師1名・保育士等6名）

幼稚園に通園した子どもが2人いたものの乳児院で生活する上での限界から、12月初日より児童養護施設で生活させた。保育者は常に子どもたちの気持ちに寄り添い子どもたちの気持ちを代弁することに注力した。また職員は、幼児版コミュニケーションスペアレンティング初級編（CSP）研修を取り入れながら、子どもの養育に特化したかかわり方を学んでいる。

4. 養育支援

様々なオンライン研修を通じて、職員のスキルアップに努めてきた。子どもたち一人ひとりの養育支援計画表を作成し、それに基づいて子どもたちやその家庭の抱える諸問題をホーム会議や支援者会議、そしてカンファレンスを通して養育支援を行ってきた。

(1)食生活

・献立について

基本的に手作りで加工品はなるべく使用しないことにしている。また旬の食材、季節に合った食材の使用を心掛けている。献立は野菜メニューが多いが、美味しく食べられる工夫をしながら無理なく食べられるようにしている。その他、手作りおやつや地元ならではの食材や食品を活用している。また一方で、食物アレルギーのある子どもにはその子どもに適合した献立を提供してきた。

・食事量について

基本的に量は少なめに盛り、おかわりをさせている。盛られた分量を食べること

により、食べられた・おかわりできたという喜びを持たせ、自信に繋げられるようにしている。また、苦手なものは自分から「減らして」と言える環境を醸成している。

- ・食育について

年齢に合わせた簡単な調理を子どもたちみんなで楽しんだり、外出時に食材の買い物をしたり、食事の準備や片付けのお手伝い等を通して、食べものの大切さや食べることの大切さ、食べることができる幸せを感じて伝えるようにしている。

(2)衣生活

- ・衣服費は措置費の中から年2回出費額を定めて購入している。購入にあたっては、子どもの担当者が子どもと一緒に量販店へ行き、好みを取り入れて購入している。
- ・一般の方から寄付されてくる衣料品からも同様に選んで子どもに提供している。“物を大切にする”“もったいない”という感謝の心を、小さな子どもの頭でも感じられる機会をもたせるようにしている。

(3)住生活

- ・年齢に応じて2つの小規模グループを設置している。
- ・就寝部屋も2つ用意し、浴室と沐浴室は1か所としている。
- ・親子訓練室を設け、親子関係を調整向上に資することを目指したが、なかなか親子関係再構築に向かったケースが出てこなかった。

(4)健康と安全

- ・軽易な怪我等は看護師がその職責に基づいて手当を行った。看護師は常に学園嘱託医と連絡が取れる環境に努め、突発的な症状を発症したときには行きつけの医療機関に対応をお願いした。嘱託医は毎月1回（基本的に第1木曜日の夕刻）子どもたちの健康管理にあたる児童健診を行っている。
- ・コロナウイルス感染症の事案が発生した場合は、保健所等の指導のもと速やかに対応できるように図上訓練等も実施した。
- ・職員にはコロナウイルスワクチン3回とインフルエンザ予防接種を推奨した。
- ・子どもたちには発達年齢に応じて、予防接種法に従い適時ワクチン接種を行った。
- ・感染症予防のため、プレールーム（ほふく室）は床暖房を採用している。
- ・養育者は子どもの起床から就寝まで常に安全管理に努め、夜間は、乳児は15分チェック、2歳未満の幼児は60分チェックを実施して乳幼児突然死症候群対策等を行ってきた。

(5)家族への支援（里親委託関係）

- ・家庭支援専門相談員をその専任として当たらせて、子どもの家庭への電話連絡や訪問活動を児童相談所と連絡調整しながら進めてきた。

- ・育児不安や精神的問題を抱える母親に対しては、子どもと母親等との関係づくりのため、児童相談所と連絡を取りながら、慎重に面会や外出、外泊を進めてきた。
- ・家庭に帰れない子どもには、特定の里親にお願いしたり、1対1の関係を重視した養育担当者と過ごしたり、まさに家庭養育を意識した取り組みを行ってきた。
- ・福井県ではフォスタリング機関「福さと」が5月に発足した。里親支援専門相談員は定期的に「福さと」に出向き協力体制を取ってきた。また里親制度に関心を示す方に対して、里親研修を行ったり出前講座を開いて里親啓発や里親研修を随時行ってきたりした。現在1歳女兒がマッチング段階にあり本年夏に向けて委託を進めている。今後も里親委託に該当する子どもには制度に基づくマッチングを進めていきたい。

5. 養育支援計画・記録

- ・子ども一人ひとりに年2回（5月と11月）、各担当者が中心となり、養育支援計画表を作成している。家族の状態や子どもに対する家族の思いを聞き取り、児童相談所から提示された個別援助指針に基づいて、一人ひとりの短期目標および中期目標を作成し、全体としての養育支援計画表を児童相談所に折り返し送っている。
- ・日々の記録やグループ討議、カンファレンスで意見交換したものは併せて、情報共有ソフト「エフトス」に挙げながら活用している。

6. 権利擁護

- ・日本国憲法、日本国憲法、児童憲章、児童福祉法、児童虐待の防止に関する法律、全乳協倫理綱領、白梅学園職員倫理綱領等に掲げられている理念を遵守する、を基本的な養育理念として子どもを尊重し、子どもの最善の利益のために尽力している。
- ・職員が子どもの権利を擁護する精神と実践のために、積極的に研修会などに参加させるように計画したが、コロナ感染症の拡大により十分な研修を受講できずに終わってしまっている。研修が実施できたものについては、カンファレンスの折に報告する時間を確保している。
- ・入所の際には、家庭支援専門相談員ならびに養育主任（UL）が、保護者に施設の役割と子どもの権利に関する事案について書面を使いながら説明している。

7. 関係機関との連携

- ・施設の役割や機能を達成するために、児童相談所との連携を適切に遂行し、定期的な情報共有や事例検討会議を通して、子どもの家族が抱える問題（課題）についての支援や問題解決への取り組みを行ってきた。
- ・各市町の要保護児童対策地域協議会（要対協）の施設代表者に施設長がなっており、また個別のケース検討会議いわゆる実務者会には家庭支援専門相談員等が参加して、地域の要養護児童（家庭）の状況把握に努めている。
- ・幼稚園に通う子どもたちについては、幼稚園関係者および一般家庭より通園されてい

る保護者の方々に、施設の社会的役割を伝える啓発をしている。

8. 職員の資質向上

- ・施設長は職員の範となるべく、また施設長の監護権と親権の明確化や親権停止制度の改正などを理解していることが求められるため、「社会的養護を担う児童福祉施設長研修会（隔年受講義務：1泊2日）」を受講しなければならない。＜令和2年度受講済＞令和4度は受講の年である。
- ・職員の研修は、年度初めに研修計画（案）を発表し、施設長や養育主任（UL）を中心に援助技術の向上を目指す。勤務経験の浅い職員には新任研修等を、中堅職員にはそれに応じた研修を受講させる計画であったものの、コロナ感染拡大により研修が中止となったり延期されたりし思うような実績を上げることができなかった。できる限りオンライン研修に参加させ資質向上に努めた。

9. その他

- ・施設長との個人面談（1～2回）行い、現況と今後の展望等について意見交換した。
- ・職員を慰労するために、コロナ感染症の低下した12月に5班に分けて実施した。
- ・令和4年度は、第三者評価を秋に受審する予定。＜福井県社協＞

10. 職員配置状況（年度初）

職 種	人 数	職 種	人 数
施設長	1 人	事務員	1 人
里親専門相談員	1 人	家庭専門相談員	1 人
個別対応職員	1 人	栄養士	1 人
主任（UL）	1 人	看護師	2 人
保育士	9 人	指導員	1 人
調理員	0 人	パート	4 人
正職員 19人		パート4人	合計 23人

令和3年度事業報告

1、事業の目的

白梅学園の基本理念に基づいた養育方針の実践を行い、家庭的養育の実現に向けた対応。

また、福井県社会的養育推進計画実施に伴い、本計画の基本理念である、①子どもの最善の利益を優先、②家庭養育優先の原則を中心に、計画期間である令和2年から令和11年（10年間）に向けた対応を、今後の児童福祉施設に必要とされる事業と捉え、嶺南地区の地域ニーズ踏まえて優先的に推進を図る。

2、施設の現状

今年度も引き続き、社会的に新型コロナ感染拡大対策が行われる中、その対応を含めて行事開催や園内研修、また、家族交流や里親やボランティア活動の規制などやむを得ず予定を変更することが多くあった。子ども達もそのような状況の中でストレスが溜まることはあったと思われるが、直接処遇職員の適切な対応により、施設内クラスターや大きな事故もなく、一年間を過ごすことが出来た。

また、今年度は各研修体制が「with コロナ」の観点から、ハイブリッド研修などオンラインを含めた研修会や講習会が開催され、職員の人材育成の上にも重点的に参加する計画を立て実行することが出来た。

児童養護施設晴喜館の年間目標におけるコンセプトとして、①サービスの統一化（養育技術の向上）、②問題の共有化（アセスメントシートの確立）、③根拠に基づく支援（エビデンス）。以上3つベースに施設の高機能化を目指してきた。

令和3年4月1日付けで、計画していた地域小規模ホーム「たんぽぽ」を気比中学校区となる清水町に移転。家庭的養育の実践と自立に向けた支援の充実。また、地域支援の繋がる拠点として、その機能充実を図っていく。

実績として、6家族7名の子ども達が家庭復帰に向けた支援を行い、措置解除となった。

現状としては、今後も引き続き支援が必要な家庭やアフターケアが必要だと考えるケースが5割以上ある。パーマネンシー（永続的支援）やアドボケート（意見表明支援）を重視しつつ地域関係機関との連携の下、子どもの最善の利益が提供できるよう、その対策を検討していく。

また、昨年中は職員のバーンアウトや退職者が数名出た。小規模化に伴い子ども達の問題行動も個人的な課題が表出し、その対応が非常に難しいケースになってきている。改めて、職員における個々の養育技術向上と、それを支援する日々のフィードバックやスーパービジョンの必要性を感じ、引き続き人材育成の計画を実施していきたい。

最後に、事業計画立案に伴ない全職員の参画を目的とした意見書を作成しその共有課題と対策に向けた対応を検討した。意見を聴取し、その内容を総括、①労務に関する事、②子どもの養育に関する事、③職場の環境改善、以上3つのことについて担当を設けて、その解決に向けて検討を行った。内容によっては、継続して審議していく必要がある。

1、月別入所児童の推移（※月初の人数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
本 体	28	28	28	27	27	26	22	22	22	22	22	22
たんぽぽ	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
日 向	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
合 計	40	40	40	39	39	38	34	34	34	33	34	34
定 員	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44
充足率	90.9	90.9	90.9	88.6	88.6	86.3	77.2	77.2	77.2	75.0	77.2	77.2
一時保護						4	44					
短期支援			4	1	18	6	6		10	3		

※一時保護、短期支援事業は延べ日数

2、職員配置状況

あらき棟 事務所	
職 名	配置
施 設 長	1
事 務 員	1
家庭支援専	2
里親支援専	1
心理療法士	1
個 別 対 応	1
栄 養 士	1
嘱 託 医	1
特別指導員	1
学習指導員	1

晴喜館第2棟		
職 名	めばえ	ふたば
U L	1	
保育士	3	2
指導員	0	1
調理員等	1	
管理宿直	1	
地域小規模		
職 名	たんぽぽ	日向
U L	1	
保育士	3	1
指導員		2
管理宿直	1	

晴喜館第3棟		
職 名	あおば	わかぎ
U L	1	
保育士	3	2
指導員	0	1
調理員等	1	
管理宿直	1	

正規職員	3 1 名
非 常 勤 嘱託医	1 名
特別指導員	1 名
学習指導員	1 名
管理宿直	3 名
合計	3 7 名

3、会議等

会議名	参加対象者	年間回数
全体会議	養護全職員	12回
合同支援者会	乳児・養護の支援者	2回
支援者会議	施設長・F S W・里専・心理・U L	21回
H L会議	施設長・F S W・里専・心理・U L・H L	11回
ホーム会議	ホーム職員（必要に応じて支援職員）	随時
専門委員会	アドバイザー：1名 委員：5～6名	随時
中高生会議	指導員 中高生児童	6回
三者協議	敦賀市児童福祉課・敦賀児童相談所・白梅学園	4回

4、心理療法・家族支援・里親支援 実施状況

① 心理療法 毎リ週 or 隔週 or 月1回 50分

内容（カウセング・プレセラピー・SST（アンガーコントロール））

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
対象児童	19	21	20	19	7	19	20	21	20	18	19	20	
延べ回数	32	32	40	34	6	47	43	49	27	38	39	30	417

② 家族支援 ・対象家族6家族 ・研修開催数 1回 ・家庭引き取り 6組7名

③ 里親支援 ・里親サロン3回 ・福里サークル3回 ・嶺南サロン2回

・里親リクルート 延べ2日間

・里親研修 3組延べ10日 ・その他電話相談等

5、主な行事

日付	行事名	開催場所	参加人数	
			職員	児童
4/5	英会話教室5,6月 計3回	あらき棟2F	6	8名
5/29	ユニバーサル野球プロジェクト2021	施設内	15	全員
8/6	白梅学園 海水浴	菅浜海水浴場	20	全員
8/19	白梅学園 納涼祭	施設内	22	全員
9/11	福井大検査協力	福井大学研究所	6	20
10/9	芋掘り招待行事（榎本康博氏より）	若狭町生倉	3	8
10/31	みかん狩り（小学生）	大比田 森田さん	5	18
11月	職員の意見書を作成		全員	
12/7	ペアトレから子どもの支援方法を考えよう	あらき棟2F	21	
1/5	お正月お楽しみ会（評議員 榎本氏）	あらき棟2F	10	全員
2/5	マネークリップレクチャー	あらき棟2F	6	中高

※コロナ禍のため、全体行事は避け、ホーム毎の行事を中心に行った。

6、特記事項

- ・施設長との個人懇談を年1回行い、現況や改善点について意見交換を行った。
- ・ユニバーサル野球や映画「189」の福井県内試写会に向けて協力を行った。これは、地域に向けた「児童虐待」の理解と啓蒙を目的に行い、これを機に、地域の方々の繋がりも多く持てた。
- ・コロナ禍では厳しいと思われたが、県内での職員旅行を企画。小グループではあったが多く参加頂き、職員への慰労の一助として有意義な時間を過ごすことが出来た。

児童家庭支援センター白梅 令和 3 年度事業報告

1. 事業の内容

- ①児童に関する家庭その他からの相談のうち、専門的な知識及び技術を必要とするものに応じる。
- ②市町村の求めに応じ、技術的助言その他必要な援助を行う。
- ③児童相談所において、施設入所までは要しないが要保護性がある児童、施設を退所後間もない児童等、継続的な指導委託措置が必要であると判断された児童及びその家庭について、指導措置を受託して指導を行う。
- ④里親及びファミリーホームからの相談に応ずる等、必要な支援を行う。
- ⑤児童相談所、市町村、里親、児童福祉施設、要保護児童対策地域協議会、民生委員、学校等との連絡調整を行う。

2. 令和 3 年度運営方針

- ①地域社会から信頼を得られるような子育てに関する相談活動を展開する。
- ②敦賀児童相談所と連携して嶺南西部地区の家庭児童問題に対応する。
- ③乳幼児等の健診等に同席し、地域の親子関係状況等を見極める。
- ④児童相談所から指導委託を受けた子どもの家庭を見守るため、家庭訪問や児童家庭支援センターへの通所を繰り返しながら家庭再統合を円滑に行えるよう支援する。
- ⑤心理士は地域の対象児童およびその親の心理療法に寄与していく。また乳児院に出張して児童及びその親に対しても心理療法を活用していく。

3. 令和 3 年度事業実績

1) 地域・家庭からの相談に応じる事業

児童の保護者や関係機関から相談を受けた。保護者から相談を受けた場合は、関係機関に報告し、連携して支援を行った。関係機関との連携は、可能な限り、保護者の承諾を得て行った。また、必要に応じ、児童に対して、心理士が心理療法等を実施した。心理士の見立て、心理療法中の児童の様子は、保護者や児童の所属機関に報告する。そして、日々の関わりに活かせるように相談員が保護者との面談、関係機関へ電話や訪問で説明している。

相談実績は、相談実人数、相談延件数ともに昨年度より増加した。電話相談、訪問相談、心理療法等が昨年度より増加した。

相談内容は、養護相談が最も多い。不登校相談は、昨年度から約 4.8 倍に増加した。不登校児の心理療法や家庭訪問を実施したことが、訪問相談や心理療法等の件数の増加につながっていると考えられる。

保護者(家族・親戚)からの相談対応が最も多いことは、例年変わらない。令和 3 年度は、民生委員との連携が増え、近隣・知人の件数が約 4 倍になった。

相談実績の詳細は、以下の通りであった。

(1) 月別相談実人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
新規受理人数	45	5	6	8	2	4	8	4	3	6	0	6	97
継続相談人数	0	39	37	41	40	38	41	45	44	46	46	56	473
月別相談実人数	45	44	43	49	42	42	49	49	47	52	46	62	570

(2) 月別相談延件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
電話相談	81	65	82	73	75	104	75	91	107	125	77	137	1,092
来所相談	24	29	25	31	23	28	20	29	20	29	21	26	305
訪問相談	35	44	57	43	39	40	56	59	29	29	56	59	546
心理療法等	19	24	15	20	15	14	19	18	11	16	16	12	199
メール相談	5	1	1	1	1	2	4	1	1	2	0	0	19
手紙相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他()	1	0	0	1	10	5	1	7	1	0	0	0	26
月別延件数	165	163	180	169	163	193	175	205	169	201	170	234	2,187

(3) 相談・指導内容の種別延件数

養 護	虐待 (再)	保健	障害	非行	育 成				いじめ	DV	その他	合 計
					性格 行動	不登校	適性	しつけ				
1,397	74	47	0	0	579	140	17	5	2	0	0	2,187

(4) 相談経路別受付延件数

県・市町村			児童福祉施設		保健所 及び 医療 機関	学校等	家族 親戚	近隣 知人	児童 本人	18歳 以上 本人	里親 里子	その他	合 計
児童 相談所	福祉 事務所	その他	保育所	その他									
91	373	185	65	78	57	149	817	74	284	7	0	7	2,187

2) 市町村の求めに応ずる事業

派遣依頼を受け、各事業運営に協力をした。

(1) 1歳6か月児健康診査および3歳児健康診査(小浜市)

親子関係や家庭環境等に関する相談・指導。カンファレンスに参加。新型コロナウイルス感染症予防を行いながらの実施だった。参加者が、1ヵ所に集まらないように、いくつかの部屋を使用して実施された。相談員は、参加者の誘導を行いながら、親子の様子観察、保護者の話を聞いた。

当センターで支援を行っている家庭については、保健師に事前連絡をして情報を共有しておく。

また、健診の場で当センターを知り、相談につながることもある。

1歳6か月児健康診査

出席日: 4/15、5/20、6/17、7/15、8/19、9/16、10/21、11/18、12/16

R4.1/20、2/17、3/17 (12回参加)

3歳児健康診査

出席日: 4/22、5/27、6/24、7/29、8/26、9/30、10/28、11/25、12/23

R4.1/27、3/24（12回参加）

(2) 5歳児健康相談(小浜市)

親子関係の観察、アドバイス。カンファレンスに参加。相談員は、事後相談で診察内容の確認、保護者の相談に応じる。

当センターで支援を行っている家庭の情報提供。当事業から、3人が当センターでの継続支援となった。

出席日：5/11、6/10、7/6、9/9、10/14、11/11、12/9、R4.1/13、2/10、3/10(10回参加)

(3) あそびの教室「すまいる」(小浜市)

心身の発達に問題のある子どもを早期に把握し、適切な指導を行い健全な発達を促すとともに、保護者が子どもにあった関わりができるよう支援することが目的の事業である。

子どもの観察、保護者への育児のアドバイス、カンファレンスに参加。

令和3年度は、相談員が保護者と個別面談を行い、当センターでの継続支援につながったケースがあった。

出席日：4/9、5/14、6/11、7/9、8/6、9/10、10/15、11/12、12/10、R4.1/14、2/25、3/18

(12回参加)

(4) ペアレント・プログラム(小浜市)

ペアワークのフォロー、アドバイス、カンファレンスに参加。9人の母親が参加。小浜市子育て支援センター、児童発達支援センターを利用している母親が参加した。また、小浜市だけでなく、美浜町、高浜町在住の参加者もいた。3月には、フォローアップ教室を実施。

出席日：9/14、9/28、10/12、10/26、11/9、11/30、R4.3/15（7回参加）

3) 児童相談所からの委託による指導

『福井県児童家庭支援センター指導委託実施要綱』が令和3年3月1日から施行された。今後は、要綱に沿っての支援を行っていくことになっている。令和3年度は、指導委託ケースがなかった。

4) 里親等への支援

6月13日(日)、12月19日(日)に福井県里親会「嶺南サロン」を当センタープレイルームで開催(場所提供)。

6月は、4人の里親、委託されている里子4人、里親支援専門相談員2名の10人が参加。

2月は、3人の里親、委託されている里子3人、里親支援専門相談員3名の9人が参加。

令和2年度は、お菓子を食べたり、飲み物を飲んだりしながら、参加者が話をして過ごしていた。しかし、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、飲食はせず実施された。

5) 関係機関等との連携

(1) 育児不安解消サポート事業“かるがものお部屋”(若狭健康福祉センター)

子どもの保育、子育てについてのサポート、カンファレンスに参加。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響、大雪の影響で中止となることがあった。

出席日：5/25、6/22、7/27、8/24、9/28、10/26、11/30、R4.1/25、3/22（9回参加）

(2) 小浜市要保護児童対策地域協議会

代表者会議(1回)・実務者会議(2回)・個別ケース会議(1回)・進行管理(3回)

出席日:6/11、6/18、7/9、10/25、R4.2/8、3/4 (7回参加)

(3) 高浜町要保護児童対策地域協議会 実務者会議(2回)・個別ケース会議(8回)

出席日:4/30、5/21、5/27、7/20、10/22、11/18、12/23、R4.3/24 (10回参加)

(4) 若狭町要保護児童対策地域協議会 実務者会議(2回)

出席日:7/21、R4.3/24 (2回参加)

(5) おおい町要保護児童対策地域協議会 ケース会議(1回)

出席日:5/26(1回参加)

(6) 敦賀市要保護児童対策地域協議会 ケース会議(1回)

出席日:R4.2/24 (1回参加)

(7) 関係機関との話し合い・会議

要保護児童対策地域協議会以外で関係機関と今後の支援方法、役割分担などの話し合いや会議を行った。

関係機関:医療機関、学校、教育事務所、児童発達支援センター、保健所、

児童相談所、健康管理センター、要保護児童対策地域協議会担当課

実施日:4/26、5/17、6/1、6/11、6/16、6/30、7/30、8/24、8/26、9/3、9/16、

10/2、10/7、10/27、12/17、R4.1/12、3/24、3/28 (18回参加)

6) 福井県ひきこもり対策連絡協議会

福井県ひきこもり地域支援センターの設置にあたり、ひきこもり本人または家族等の相談内容に応じた適切な支援を行うことができるよう医療・保健・福祉・教育・労働などの関係機関からなる福井県ひきこもり対策連絡協議会を設置されている。この連絡協議会の委員に児童家庭支援センターが含まれている。県内4センターが輪番制で構成委員として参加。令和3年度は、当センターが担当だった。

7月5日オンラインにて“令和3年度第1回福井県ひきこもり対策連絡協議会”が行われ、各委員会から所属機関の紹介(活動・支援内容、近況、活動を通じて感じていること)、意見交換が行われた。

例年3月に行われている連絡協議会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、資料送付という形になった。

7) 児童相談所業務の協力

児童相談所職員が若狭地域の保護者と面談する時、当センターを面談場所として使用。また、児

童相談所職員が立会いのもと、施設入所児と保護者の面会を当センターのプレイルームで実施していた。その他に、令和 3 年度は、児童相談所職員が里親希望者や里親と面談する時も当センターを使用された。

協力日:4/19、4/21、4/23、5/21、6/1、6/16、7/12、

8/25、8/31、9/7、9/9(3 回)、11/19、12/16 (15 回協力)

8) 地域支援事業(プレイルーム開放)

日曜日 9 時から 17 時まで地域の親子、子ども(18 歳まで)に開放した。

新型コロナウイルスの感染防止のため、食べ物(お菓子を含む)を禁止した。また、感染状況に応じて、プレイルーム開放の中止も行った。

母と子どもの利用だけでなく、夫婦で子どもを連れて利用したり、父だけが子どもを連れて利用したりする家族もいた。

新型コロナウイルスの感染の流行に伴い、プレイルームを開放しても利用者がいない日も増え、年間の利用者は減少した。

開放回数:35 回 利用した子どもの延人数:39 人(保護者:20 人)

9) 小浜市主任児童委員(9 名)が見学

10 月 28 日(木)小浜市主任児童委員が当センターを見学した。

見学後、プレイルームにて、当センターの業務を説明。また“福井県家庭養護推進ネットワーク フォスタリング事業部”のパンフレットを配布し、里親制度についても簡単に説明を行った。

主任児童委員より、当センターを知らない保護者が多い。広報をしてほしいとの意見があった。

10) 職員研修等

新型コロナウイルス感染症の影響で、研修が中止、オンライン研修に変更になった。

- ・令和 3 年度 中部地区児童家庭支援センター協議会 総会(4/12 福井県敦賀市)
- ・全国児童家庭支援センター協議会主催 児童家庭支援実務者オンライン研修会(7/2)
- ・FLEC フォーラム・緊急シンポジウム(7/3 オンライン)
- ・令和 3 年度 児童虐待防止研修会(8/4 オンライン)
- ・中部地区児童家庭支援センター協議会 第 14 回 実務者研修会(10/8 オンライン)
- ・令和 3 年度 第 2 回ひきこもり支援関係機関職員研修会(10/13 オンライン)
- ・子どものこころの健康を考えるシンポジウム

愛着障害をめぐって～愛着障害って何だろう？(10/24 オンライン)

- ・令和 3 年度 ひきこもり・不登校学習会(11/29 オンライン)
- ・令和 3 年度 第 2 回市町職員等児童虐待防止研修会<STEP 研修>(12/8 オンライン)
- ・福井県児童福祉司任用資格取得して講習会(2/4、2/9 オンライン、2/18、2/24 福井県越前市)
- ・令和 3 年度 ファミリーソーシャルワーク研修(R4.2/27 オンライン)